

同じ診療所を2つの公的統計で数えると、歯科は合い、一般診療所は26.8%ずれる

山岸 勇輝 (Yuuki YAMAGISHI) / Independent Researcher

ORCID: 0009-0006-8587-3450

第1版 2026-09-21

要旨

診療所の数を、医療施設調査（令和5年10月1日、厚生労働省）と経済センサス（令和3年6月1日、産業小分類832・833）の2つで数え、1,889市区町村で突き合わせた。

歯科診療所はほぼ合う。66,442 対 64,276 (+3.4%)。市区町村ごとの比の中央値は **1.000**、ぴったり一致する市区町村が **43.7%** ある。

一般診療所は合わない。104,244 対 82,182 (+26.8%)。比の中央値は **1.326**、ぴったり一致は **5.4%** しかない。ずれは一方向で、医療施設調査のほうが多い。経済センサスで0なのに医療施設調査には診療所がある市区町村が **60** あり、その逆は **0** である。

一般診療所の **94.6%** は無床である。人口1万人あたりの一般診療所は中央値 **7.62**。一般診療所が1つも無い市区町村は、全国で3つ（興部町3,422人・山江村3,092人・北川村1,161人）。

同じ名前の数字でも、統計が違えば別のものを数えている。どちらが正しいかを、本稿は判定しない。

1. はじめに

I001・I002 は、供給（事業所）を需要（台数・認定者）で割った。

その前に確かめておくべきことがある。供給の数そのものが、統計によって違わないか。

同じ「診療所」を2つの公的統計で数えると、数は合うか。

診療所は、医療施設調査と経済センサスの両方に出てくる数少ない対象である。

2. データ

医療施設調査	厚生労働省「令和5年 医療施設（静態・動態）調査」二次医療圏・市区町村編 第2表。一般診療所数・歯科診療所数（令和5年10月1日現在）
経済センサス	総務省・経済産業省「令和3年 経済センサス-活動調査」産業小分類 832 一般診療所・833 歯科診療所（令和3年6月1日現在）
人口	総務省「住民基本台帳に基づく人口」2026年1月1日

医療施設調査は政令指定都市を区に分けている。したがって単位は **R001** の単位**A**（1,889市区町村）。両方の統計と人口がそろう **1,889市区町村**を対象とした。

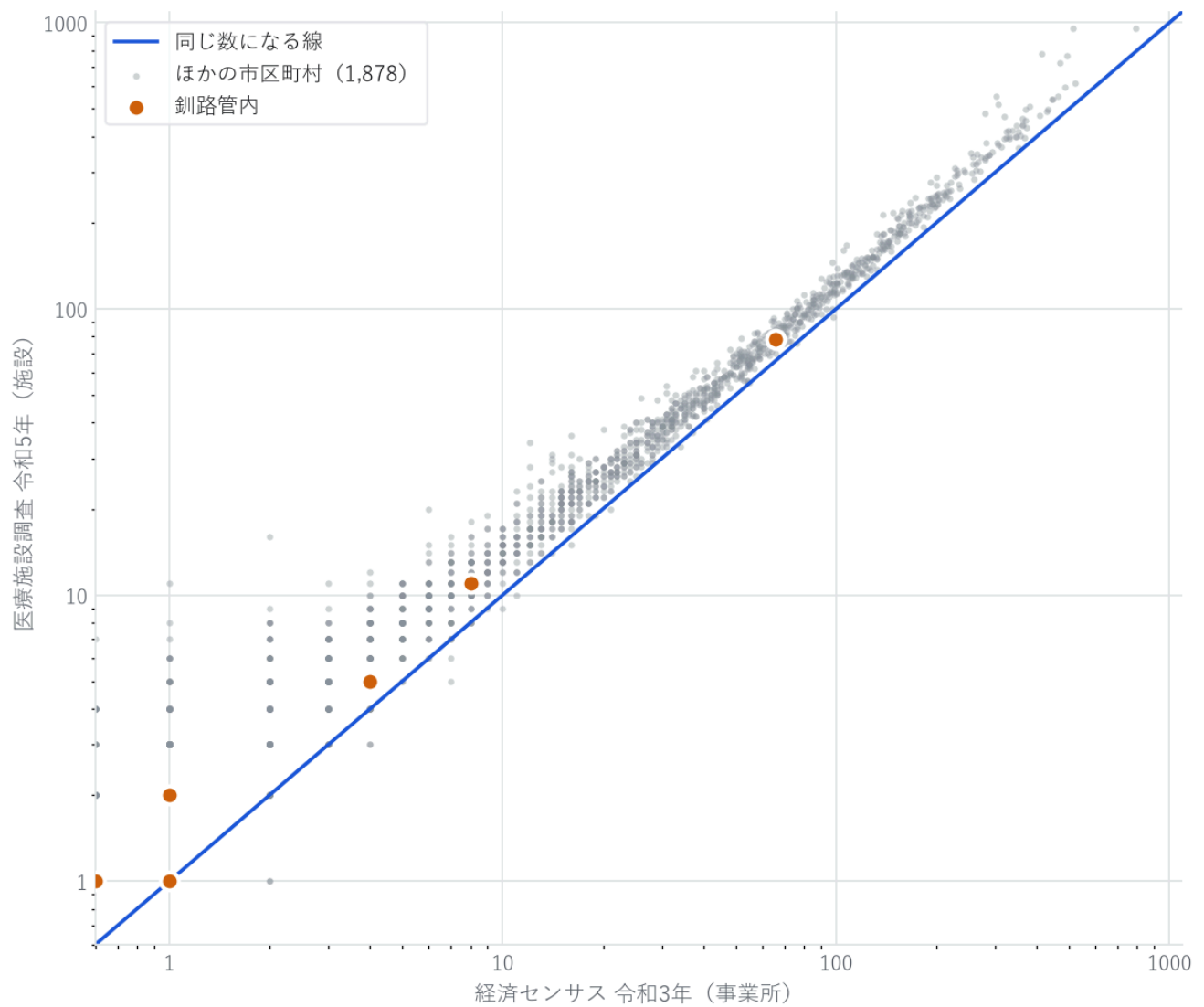
時点は2年4か月ちがう。この点は第4節で扱う。

3. 結果

3-1 歯科は合い、一般診療所は合わない

	医療施設調査（令和5年）	経済センサス（令和3年）	差
一般診療所	104,244	82,182	+26.8%
歯科診療所	66,442	64,276	+3.4%

同じ「一般診療所」を、2つの公的統計で数えた



出典：厚労省 令和5年 医療施設（静態・動態）調査／経済センサス 令和3年。対象 1,886 市区町村。

図1 同じ「一般診療所」を、2つの公的統計で数えた（1,889市区町村）。
 青い線は両者が同じ数になる位置。灰色の点はほかの市区町村、橙は釧路管内。両軸とも常用対数の目盛で、経済センサスが0の市区町村は左端に置いた。

3-2 市区町村ごとに見ると、差は一方向

	一般診療所	歯科診療所
両方1以上の市区町村	1,826	1,807
ぴったり一致	98（5.4%）	789（43.7%）
比（医療施設調査 ÷ センサス）の中央値	1.326	1.000
差の絶対値の中央値	5.0	1.0
10以上ちがう市区町村	582	74
センサス0だが医療施設調査にある	60	14
医療施設調査0だがセンサスにある	0	12

一般診療所では、ずれがきれいに一方向である。医療施設調査のほうが多い側に偏り、逆はほとんど無い。
 歯科診療所では、両方向に同じくらい出ている（14 と 12）。

3-3 一般診療所の94.6%は無床

全国の一般診療所104,244のうち、無床が **98,636（94.6%）**。
 人口1万人あたりの一般診療所は、市区町村の中央値で **7.62**。多いのは三島村112.4・十島村107.5・早川町87.7・千代田区80.3である（人口が小さい村と、昼間人口が多い都心部）。
 一般診療所が**1つも無い**市区町村は、全国で**3つ**しかない。興部町（3,422人）・山江村（3,092人）・北川村（1,161人）である。

R002 で、一般診療所の50%到達人口が最小の155人だったことと整合する。診療所は、最小の町にもある。

3-4 釧路総合振興局管内

市町村	人口	一般（医療施設調査）	一般（センサス）	歯科（医療施設調査）	歯科
釧路市	151,566	78	66	82	
釧路町	18,021	11	8	8	
厚岸町	7,976	2	1	5	
浜中町	5,172	2	1	2	
標茶町	6,698	1	0	2	
弟子屈町	6,327	5	4	3	
鶴居村	2,368	1	1	1	
白糠町	6,840	5	4	4	



管内でも同じ向きである。歯科はほぼ一致し、一般診療所は医療施設調査のほうが多い。
標茶町は、**経済センサスでは0、医療施設調査では1**。R001 や R002 で「その分類が無い」と数えた市区町村の一部は、別の統計では「ある」ことになる。

人口1万人あたりでは、釧路市（5.15）が管内で低いほうにあり、弟子屈町（7.90）・白糠町（7.31）が高い。全国の中央値7.62と比べると、釧路市は少ない側である。

4. 考察

4-1 時点の差では説明しきれない

2つの統計は2年4か月ちがう。だが歯科診療所は同じ期間で **+3.4%** しか動いていない。

同じ期間に一般診療所だけが**26.8%**増えたとは考えにくい。差の大半は、数えている対象の違いだと見るのが自然である。

4-2 「施設」と「事業所」は違う（仮説）

医療施設調査は**施設**を、経済センサスは**事業所**を数える。

一般診療所には、病院に併設されたもの、企業・学校・福祉施設の中にあるものが含まれる。経済センサスでは、そうした診療所はその事業所の主たる事業で分類されるため、832 に計上されないことがありうる。

歯科診療所は独立して開業している場合がほとんどなので、両者が一致しやすい。

この説明は仮説である。本稿では確かめていない。

4-3 「無い」と数えるときは、どの統計かを書く

R001・R002・R003 は、経済センサスだけで「ある／無い」を数えた。

本稿の結果は、その「無い」が統計の選び方に依存することを示す。一般診療所では、センサスで0の市区町村60か所に、医療施設調査では診療所がある。

これは先行する報告を否定するものではない。ただし「無い」と書くときは、どの統計でどの時点かを必ず添える必要がある。

5. 限界

- 医療施設調査は令和5年10月1日、経済センサスは令和3年6月1日、人口は2026年1月1日。時点が違う
- 医療施設調査は「施設」、経済センサスは「事業所」。同じ対象を同じ定義で数えているとはかぎらない

- 経済センサスには秘匿の扱いがあり、数の少ない市区町村では実際と異なる場合がある
 - 診療科・規模・開設者の別は見えていない
 - どちらが正しいかを、本稿は判定しない
-

6. 再現の手順

1. e-Stat から「令和5年 医療施設（静態・動態）調査」二次医療圏・市区町村編 第2表（CSV）を取得する
2. e-Stat から令和3年 経済センサスの産業小分類別 事業所数（市区町村別）を取得し、832・833 を取る
3. 市区町村コード（5桁）で突き合わせる。医療施設調査の表には、都道府県と二次医療圏の行も混ざっているなので、5桁の行だけを使う
4. 全国の合計、市区町村ごとの比と差を出す

本稿の数値は、すべて1本のスクリプト（`kensan_190`）の出力である。中間の数値を手で書き写していない。

参考文献・データの出典

1. 厚生労働省「令和5年 医療施設（静態・動態）調査」二次医療圏・市区町村編
2. 総務省統計局・経済産業省「令和3年 経済センサス-活動調査」産業小分類別 事業所数（市区町村別）
3. 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」2026年1月1日現在
4. 山岸勇輝「市区町村の人口と、そこにある産業小分類の数」（R001）。Zenodo.
<https://doi.org/10.5281/zenodo.22872218>
5. 山岸勇輝「その商売は、人口何人の町から現れるか」（R002）。Zenodo.
<https://doi.org/10.5281/zenodo.22872356>

版の記録

版	日付	内容
第1版	2026-09-21	初出